

# ばらんす

第42号

## 編集発行

大田原市総合政策部  
政策推進課 市民協働係  
〒324-8641  
大田原市本町1丁目4番1号  
☎ 0287-23-8715  
FAX 0287-23-8748



### 里山に思いをよせて

#### カフェレストラン 糸

#### オーナー 高塩 玲子さん

#### 私が生まれ育った里山

国道461号線を雲蔵寺方向に向かい、北野上の竜蓋山(りゅうがいさん)の入口に、「カフェレストラン糸」がある。店主の高塩玲子さんは、里山の緑に囲まれたこの地に生まれ育った。

父を幼少期に亡くし、自分たちを育ててくれた母も6年前に他界した。この自然が大好きだった母は、亡くなる直前にも裏山の竜蓋山に登ったことを嬉しそうに話してくれた。築40年の農家の建物は、住む人も使うこともなく、やがてなくなってしまうと思った高塩さんは、「ご主人と相談し夫婦でできる場所からリフォームし、地域のお茶飲み場となる「カフェレストラン糸」をオープンした。

#### 店名「糸」のメニュー

店名は母の名前イトである。母が得意だった郷土料理を店のメインメニューにした。地元の野菜を中心とした煮物、サメの切り身(モロ)の煮付け、焼物、ハンバーグなどをこだわりのドリッパーコーヒーとともに出す。



#### 里山の整備「1つでもキッズ」

店の周辺や裏山を、誰でも利用できる散歩道にしたいと考え、市街にある自宅から義母(こと)が手入れを育てた庭木などを夫婦で植林した。山道も整備し、植物の観察コースを作った。そしてこの裏山を義母の名前から「ことの森」と名付けた。裏山を登ると南に御亭山、北には那須連峰が一望できる。

高塩夫妻は「このもり里山再生協議会」の活動をバックアップしており、例会が開かれている。協議会のメインイベントとして、小学3〜6年の子どもたちを対象に、「このもりキッズ」を募集し、子ども達が森の自然と親しむ機会を提供している。「このもりキッズ」のテーマは、「触れる・感じる・食べる」などの体験を通して仲間をつくることである。それは高塩さんの思いと共通するものである。

#### 森ととも

地域に美しい緑化景観を創出している方を表彰する市の緑化顕彰で、高塩さんは優良賞、「このもり里山再生協議会」は奨励賞を受賞している。

今後も「糸」と、「このもり里山再生協議会」の活動が繋がり、「創る・使う・育てる」をモットーとして、まるで糸のように地域に広がり、子ども達や関わりあつ人々が絆を深め、里山とともに生活することを願っている。

#### ■ カフェレストラン 糸

大田原市北野上 1731  
TEL 0287-54-0544



「カフェレストラン糸」と裏山に広がる「ことの森」

# おおたわら男女共同参画プランを策定しました (第3次大田原市男女共同参画行動計画)

大田原市では、「大田原市男女共同参画を推進する条例」(平成16年制定)の理念をふまえ、平成19年3月に「おおたわら男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな施策・事業を展開してきました。

その後、国においても平成25年には「DV防止法」が改正され、平成27年8月には「女性活躍推進法」(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)が成立しました。

このような状況を視野にいれながら、これまでの取り組みを引き継ぎ、発展させる新たな行動計画として「おおたわら男女共同参画プラン(第3次大田原市男女共同参画行動計画)」を策定しました。

## 大田原市がめざす男女共同参画社会の姿

一人ひとりが家族の一員として個性を尊重し合い、いきいきと豊かな家庭を築いています。



### 家庭では

男性も女性も積極的に家事、育児、介護等を行い、共に喜びや苦勞を分かち合っています。

男女という性別にとらわれず、一人ひとりの能力や個性、可能性を伸ばすような教育が行われています。



### 学校では

進学や就職に際しても、性別にとられない個人の適性や意欲を尊重した進路選択が行われています。

互いの性と個性が尊重され、協力し合う子どもが育っています。

募集・採用や昇進及び賃金等、男女格差が解消され、能力や個性、意欲が十分発揮できています。



### 職場では

男女の人権が尊重された、セクシュアル・ハラスメントのない職場環境となっています。

古い慣習や伝統、性別によって役割が分担されるのではなく、一人ひとりが対等な地域の一員として互いの考え方や行動を尊重しています。



### 地域では

地域における様々な企画や方針決定の場にも、男女が共に参画し、豊かで住みよい地域をめざしています。

男女共に、積極的にボランティア活動をはじめとする様々な地域内の活動に積極的に取り組んでいます。

## 将来像 一人ひとりが輝く協働互敬のまち

※ 協働互敬: 共に働き、お互いを敬うことで、共に等しく恵みを分かち合うこと。

将来像の実現に向けて、本計画において取り組むべき3つの基本目標を次のように定め、さまざまな施策・事業を展開していきます。

**基本目標Ⅰ 男女共同参画の意識づくり**

**基本目標Ⅱ 男女があらゆる分野へ参画できる社会づくり**

**基本目標Ⅲ 男女が心豊かに暮らせる環境づくり**

※プランは市役所、各支所、各地区公民館及び市ホームページで閲覧できます。



## 西アフリカ・ベナン共和国で農業指導

青年海外協力隊(JICA)ボランティア

### 藤掛 知英美さん

#### 国際協力の夢を叶えるため協力隊へ

小さいころから野菜を育て、料理して食べるということに興味があった。そのため、大田原の実家は農家ではなかったが、農学部に進学。また、小学生の時に、世界には貧しく満足に食べられない人がいるということを知り、農業分野からの国際協力を目指すようになった。



3週間のホームステイ研修にて。トウモロコシを粉にして加熱した主食とピーナッツソース。

大学では国際協力の現場を見ようとタイやネパール、ケニアなど25か国をバックパッカーとして巡り、農業ボランティアを経験。現場に近い所で活動したいとの想いを強くする。その後、専門

性を身に付けるため大学院に進学、食糧品会社で流通関係の業務についてのうち、青年海外協力隊の野菜栽培の職種として、西アフリカのベナンに派遣された。

#### ベナンの現実と試練



新規野菜の実験栽培。ニンジンやカブ、エダマメを栽培。

日本人にとって馴染みの薄いアフリカの中でも、ベナンは特に知られていない国だ。日本の3分の1程の面積に1000万人が暮らし、綿花や港湾業が

主な産業の、貧しいがとても平和な国である。

サバンナのイメージが強いアフリカだが、任地があるベナンの南部は熱帯雨林気候で、日本と同じくらいの降水量がある。特に赴任した3月は雨期の最も暑い時期で、大量の虫や、豪雨に伴う頻繁な停電にも悩まされた。外国人自体が珍しい田舎の任地で、初めての日本人ボランティアとして派遣され、好奇の目に晒されることも多い。配属されたのは日本の農業普及所のような組織だが、言葉も話せず、活動もどうすればいいのか分からず、食べ物も合わず、最初の数か月は辛い日々が続いた。

#### きっかけ前へ

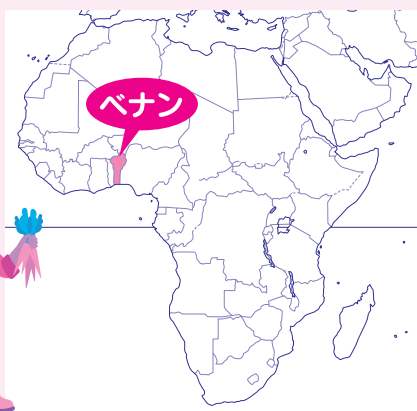


主要農産物のコットンの前で所属先の事務長と一緒に。

そのような厳しい環境ではあったが、現地の人に助けてもらいながら、一つ一つ課題を解決していった。仲良くなった配属先の研修生に活動先となる農家を紹介してもらったり、牛肉を売って

いる店を探し回ったり、大変だが、日々新しいことばかりだ。赴任10か月目となる現在はベナンでの生活にも大分慣れ、少しずつではあるが前進している。活動としては、新規野菜の普及活動や適切な栽培法の指導など、農民の収入向上に繋げることを目標に、汗を流す日々である。ベナンは他の国に比べても環境が厳しく、体調を崩す隊員も多い。まだ任期は1年以上あるため、何より心身ともに健康でいられるよう注意したい。そして、少しでもベナンの農民のための活動ができればと思っている。

(藤掛 知英美さん寄稿)



# 「日本女性会議 2016 秋田」 報告会



**日時** 11月26日(土)13:30～

**場所** 大田原市生涯学習センター

**主催** 大田原市女性団体連絡協議会

**参加人数** 56名

日本女性会議参加者:11名(女性10名、男性1名)  
報告者:8名

なまげは「赤が男性、青が女性」知ってましたか？



第1部 日本女性会議報告会第 2部 松本加奈子さん講話

## 報告会参加者の感想

行政ではなく地元銀行が企画運営した長生き学校のプログラムを見て高齢化日本一の秋田県の本気を感じました。

少子高齢社会の先例の中、結婚で外国から来た人を仲間に取り込むことで、人材として力になることが大切な事と感じました。

第2部の、病気で夫を亡くしたシングルソングライター、それでも明るく2人の子育てをしている松本加奈子さんの講話では、地元こういう方がいるという事、また彼女にとっては応援者を増やす場を作ってくれた女性団体の意義を感じました。

## 男性参加者の感想

日常生活では見聞きする事ができない貴重な経験をさせてもらえました。全国から参加している各個人が自分たちの住む町を住みよい町にするために活動している事や今回は秋田が発信源となり日本各地に広がっていくという日本女性会議の大会の主旨に感銘を受けました。今後は、自分出来る活動を長く続けていきたいし、もっと多くの方に参加してもらいたいと思いました。

平成28年度 大田原市

## 男女共同参画推進事業者表彰

本市では、男女共同参画の社会づくりを促進することを目的として、男女が互いを尊重し、責任を分かち合い、その個性と能力を発揮できる働きやすい職場づくりに取り組んでいる市内事業者を称えるため、上記の表彰制度を設けています。

受賞が決定した2事業者は、従業員に対し、配慮の行き届いた職場づくりを積極的に行っています。

**宇都宮ヤクルト販売株式会社  
大田原センター(乳製品卸売業)**

- ◎子育てママでも安心して働ける職場環境
- ◎ヤクルトレディの健康をサポート
- ◎ライフスタイルに合わせた勤務体制

**川田工業株式会社  
栃木工場(金属製品製造業)**

- ◎性別にとられない採用
- ◎女性社員の職域開発
- ◎女性社員のキャリア育成

## 市民力アップ講演会



**講師** ジャーナリスト 池上 彰さん

**テーマ** 『学び続ける力』

2月26日(日)ピアートホールにて市民力アップ講演会が開催されました。

講師にジャーナリストの池上彰氏をお招きし「学び続ける力」をテーマにご講演いただきました。

## 編集後記

イクメン、カジダン、ケアメン、イクメン、どんな意味？育児をする男性、家事をする男性、介護をする男性、地域活動をする男性のことで。残業が多かったり育児休暇、介護休暇の取得を言い出しにくい職場の雰囲気があるのはなかなかむずかしいですね。そして「男性は仕事、女性は家庭」という考え方も、もし夫が不慮の事故等に遭遇したら？男性と女性の仕事と家庭のあり方についてご家庭で話し合ってみてはいかがでしょうか？(藤 沼)

## 編集委員

荒牧 孝道 岩元 利孝  
栗原 敏子 藤沼 久子

(五十音順)